



▲「播磨町平和宣言文」発表の様子

# 次世代へ平和の尊さを語り継ごう

終戦から今年の夏で59年目。戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさを体験した世代の人が少なくなっています。播磨町では昭和57年に「核兵器廃絶のまち宣言」を行い、今年も8月8日(日)～10日(火)に長崎へ「播磨町平和特使」を派遣。また、8月22日(日)～23日(月)には「広島平和のバス」を実施し、家族・友達と平和の大切さを考えました。

## 「播磨町平和特使」としてピースフォーラムに参加して



播磨南中学校3年 高嶋 梨恵さん

私たちは戦争というものを知らずに成長してきました。戦争の体験は両親はもちろん、祖父母さえもあまりにも幼いころのことでほとんど記憶がないようです。戦争は中学生の私にとって、テレビや学校で学ぶ歴史上の出来事としてしか、とらえていませんでした。

今回、平和特使として「青少年ピースフォーラム」に参加し、被爆者の話を聞いたり、身近ないじめや差別の問題から大きな地球規模での平和について考えました。

被爆者の恒成正敏さんのお話は、思わず耳をふさぎたくなりましたが、必死で聞きました。あの日の出来事から逃げてはいけません。忘れてはいけません。伝えていかなければいけないと思いました。長崎が最後の被爆地となるように、核兵器の恐ろしさや、戦争の悲惨さを後世に伝え、平和を守っていかねばならないと思います。



播磨中学校2年 原 美穂さん

今となっては美しく賑わいのある長崎ですが、この町には今もお、原爆後障害や被爆体験のストレスによる健康障害に苦しんでいる人がいることを知りました。そんな多くの人の苦悩や、すでに亡くなられた方々の苦しみを、多くの人々に知ってもらい、59年にもわたって原爆がもたらし続けているこの悲惨な現実を直視する必要があると思います。

二度とあってはならないのです。そのためには、まず私たちが知ろうとしなければなりません。そして、世界の人々に訴えなければなりません。

現に今、同じことが繰り返されようとしています。戦争なんてあってはならないのに…。私たち一人一人が平和を願い、平和にするためにどうすればよいのかを考え、実践する必要があります。今、できることからすればいいのです。難しいことではないと思います。

世界中の人々が笑い合える日をみんなで作り出しましょう。



播磨南中学校3年 初貝 洋平さん

初めに、被爆者(恒成正敏さん)の体験講話を聞きました。恒成さんの話を聞いているうちに、原爆の恐ろしさや平和の尊さが改めて分かりました。戦争(原爆)を体験した人から話を聞くのは初めてで、また、話を聞く機会はめったにないと思うので、すごく良い経験になったと思います。

僕は、世界の恒久平和に核兵器の廃絶は必要不可欠だと思います。そのためには、一人ひとりが平和の問題に関心を持ち、身近なところから行動することが、核兵器の廃絶と世界平和の実現につながると思います。

これからも長崎が最後の被爆地になることを願い、これからの新しい社会を担う若い世代の僕たちが、未来も黒焦げにした原爆の真実を後世の人々に伝えていきたいと思っています。



播磨中学校2年 橋岡 拓矢さん

僕は平和について大した意見も持っていないし、何より一緒に行く人と友達になれるかと初めは不安でした。しかし、そんな不安はすぐに消えました。電車の中で話しているうちに、自然と仲良くなれたからです。また、もう一つの不安も無駄な心配でした。フォーラムは堅苦しいものではなく、ゲームがあったり、騒ぎながら意見を言ったりと楽しいものでした。でも、みんなやるべきところではしっかりしていて、すごかったです。

被爆者の方のお話は、本当に悲惨でした。僕が体験したなら、ひたすら逃げ回り、人を助けられなくてもしょうがなかったと思います。しかし、被爆者の方は今も助けられなかったことを後悔し、悲しんでおられるようでした。立派なことだと思います。

本当に、もう二度とこんなことが起こってほしくない、核兵器も早く無くしてほしいと思いました。

家族で学んだ

# 広島平和のバス



▲今回参加された皆さん

## 平和で助け合える時代に



播磨南中学校2年 山本 雅志さん

中学生やその親は、戦争を体験したことがなく、あまりどういふ物か分かっていないと思う。祖父や祖母に「戦争の話、教えて」なんて聞きもしない。だからこそ、この広島平和のバスのような戦争にふれることができる機会を多く作ってほしい、これからは戦争の恐ろ

しさやどれだけの人が亡くなるかなどが分かってもらえようと思う。

人間は広島に原爆が落とされ、多くの被害が出たのを知っているのにまだ世界から核兵器を無くそうとしない。あらゆる兵器が無くなれば、世界はもっと平和で、国と国が、人と人が助け合えるようになると思う。

人々は、本当に命を大切だと思っているのだろうか？ だからこそ自分たちの時代で、できる限りの平和を作っていきたいと思う。

## 戦争を起こしたくない



播磨中学校1年 大谷 梨紗さん

平和記念資料館に展示されている写真を見て、幻を見ているような気がしました。一瞬で何万人ともいう人々が亡くなるというのは、悪夢としか言いようがありません。

それでも、そんな辛い戦争の記憶を私たちに伝えようと思う人たちはとても勇敢だと思えます。それを伝えることによって、私たちが平和へと導いてくれるのだと思います。私がその人たちの話を聞いて、もう戦争でなくさんの命

## 平和のありがたさを実感



播磨小学校4年 奥野 大樹くん

を失いたくないと思ったように、たくさんの方が「もう戦争を起こしたくない」と思えば、平和は自然におとずれるものだと思います。

みんながそんな人々の話に耳をかたむけて、真剣に聞けば、地球は自然に平和になれると思います。

『戦争ほど悲しいものはない、戦争ほど残さぬものはない』と、ある小説に書かれていました。

テレビでしか戦争を見たことがない頃は、広島に行ってみて、戦争のおそろしさ、悲しさ、残さぬもの、そして今、日本が平和であることのありがたさを実感しました。

被ばくされた方の話の中で、「日露戦争や日清戦争では加害者であったため、分からなかったけど、被害者になってわかった戦争の痛みがある」と話されていた言葉が心に残りました。

広島市の平和の灯火は、世界中から核兵器がなくなれば消えると言われています。その火が一日も早く消えるためにも、しっかりと学び、日本の平和を世界へと伝えていきたいと思っています。

## 平和祈念講話会



講師の 牧野 知博さん

8月3日(火)、中央公民館で「平和祈念講話会」が行われました。

今年も町内の中学1年生と住民の方約360人が参加。広島市の被爆体験を語り継ぐ「かたりべ」の話に耳を傾けました。

講師は広島在住の牧野知博さん。被爆した時の様子などを語られ、「今は自由に学び、遊ぶことができる。それは平和だから。その当たり前のような平和を大切に、今を生きてほしい」と訴えられました。

## 平和を願う気持ちを込めて

毎年、長崎・広島の名平和公園において、参加者たちが千羽鶴を供えます。それらは多くの住民の方々が平和のためにと折ってくださり、提供していただいているものです。今年も多くの方の協力、ありがとうございました。



大山ちえ子さん (野添)

大山さんは、今までに千羽鶴を40本以上提供。「亡くなった息子を思いながら、また、平和への気持ちを込めて折っています」と話されました。